

## Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年2月18日公開

ガリラヤより、おはようございます。アミール・ツアルファティです。こちらは現在、午前 5:30 (日本時間 2月18日 12:30) です。これから仕事に向かうところですが、多くの方から、ガザとの境界線の状況について、簡単にアップデートしてほしいとの要望があったので、お伝えします。

事の始まりは金曜日(2月16日)、パレスチナとイスラエルの境界線で、いつものようにデモが行われていました。皆さん、理解しておいてください。ガザの人々は今、絶望的な状況にあります。彼らには、一日に数時間以上使えるだけの十分な電気がありません。政府は崩壊しており、テロトンネルのために何百万ドルと費やされ、彼らの大統領(マハムード・アッバース)は専用ジェット機を購入しています。そのため、彼らは絶望的で、イスラエルとの境界線でデモをしに来ているのです。そして、デモのふりをして、彼らが何をしたかといえば、爆破物を旗に結び付けて、仕掛けたのです。イスラエルのパトロールが、その旗を拾う事を知った上で、その時に爆発するようにしたのです。そして、昨日の土曜日(2月17日)、イスラエルのパトロールが午後3時半(日本時間2月17日 22:30)にその旗に近づき、取り除こうとしたところ、爆破物が爆発し、4人のイスラエル兵が負傷しました。2人は重症、2人が軽傷を負い、ヘリコプターで病院に搬送されました。いつも通り、イスラエルは攻撃を受けたなら、待たずにその場で報復します。彼らは、自分たちの行動には結果が伴う事を理解しなければなりません。そして、我々はハマスの監視所と監視塔を攻撃しました。その後、さらに6つの標的を攻撃しました。その中に、テロトンネルもあり、ご存知の通り、イスラエルは新しいシステムを開発していて、どこにトンネルが掘られているか、いつ彼らがイスラエルとの境界線を越えるかを知っています。今回は、彼らがイスラエルとの境界線を越えるのを待ちませんでした。テロトンネルは、まさに居住地域の中心から始まっていて、言い換えれば、彼らはテロトンネルを幼稚園や学校、家々に囲まれた場所に掘っているのです。イスラエルが報復すれば、そこら中に死者が出て、イスラエルがそのことで非難されるのを知った上です。我々はそのトンネルを、武器工場や訓練所、その他の標的と一緒に破壊しました。そしてハマスは、彼らがイスラエルのF-16に向けて、対航空機ミサイルを発射したことを、数ヶ月ぶりに公に認めたのです。彼らがそれをした理由ですが、彼らは通常、このような公の発表を避けています。しかし、シリアのSA5ロケットがイスラエルのF-16を撃墜した後、あの地域で、アラブ人たちは「イスラエルを痛めつけることは可能だ」と思い、そして、「さあ、やってやろうじゃないか」となったのです。

さて、皆さんが理解しておかなければならないのは、シリアのロケットがイスラエルのF-16の隣で爆発した結果、墜落したのは確かに問題でした。しかし、少なくとも1982年以降は、損害や死者を一切出さずに、戦争に勝つことは出来ません。事実、1982年もしくは1983年以降、あのような事態は起こっていないので、これは既に特記すべき出来事です。しかし、敗者の側に

いる者は、イスラエルの戦闘機を撃墜した、というような小さなことにもしがみつきたくなるもので、民族精神のような“素晴らしい勝利物語”を生み出すのです。ですから今、アラブ人たちは銃を取り出して空に向かって撃ち、シリア人たちが行なったように、自分たちもイスラエルの戦闘機を撃って、スターになろうとしているのです。しかし彼らは、F-16を撃墜したために、対航空機砲台の3分の2が破壊され、他にも多くの被害を受けたことは言いません。現在のハマスが、死者に苦しんでいることも言いません。彼らにとっては、ただ撃墜するとか、負傷させることが、勝利なのです。

ハマスのテロ集団4人が、ガザの境界線からイスラエルに潜入しようとした時、状況はエスカレートしました。我々は2人を殺害し、あとの2人は重症です。その結果、パレスチナは数発のロケットを発射し、そのうちの一発がキブツ周辺のイスラエル人の家の屋根に着弾しましたが、奇跡的に爆発しませんでした。家の中にいた人たちは誰も怪我をしませんでした。これは、大変な奇跡です。通常、我々はこうしたロケットは空中で破壊しますが、これは破壊されませんでした。しかし、爆発もしなかったのです。素晴らしいことです。

そして、今回の暴力の最終ラウンドは、ほんの約一時間ほど前、イスラエルが2度目の空爆の波を送り、さらに12の標的を破壊しました。これで合計18ヶ所のハマスの標的が破壊され、2人のテロリストが死亡、2人が重傷を負いました。それから、2回目に相次いだ警報、空襲警報は、実際は誤報でした。恐らくイスラエルによる空爆によって鳴ったのでしょう。イスラエルの警報や、空襲警報を知らせるアプリをお持ちの皆さん、恐らく、昨年などはそれらの警報の80%ほどが誤報でした。ですから皆さん、イスラエルのことを思って、イスラエルのために祈ってくださっているのは分かりますが、警報が鳴るたびに何かが起こっているわけではないことを理解しておいてください。何も伝える事がないので、その度に、私は走り回って報告したりはしません。今回は、1回目の空襲警報が本物でした。先ほども言いましたが、ロケットが一発、イスラエル人の家に落下したからです。しかし、2回目のものは誤報でした。ですから、南からの新たな攻撃の波は、これで終わりであることを願います。覚えておいてください。全ての始まりは、パレスチナ人がフェンスに爆発物を設置し、その爆破物がイスラエル兵の真横で爆発し、兵士たちが負傷しました。これが始まりです。イスラエルはこれをエスカレートさせるつもりは、一切ありません。カイロのハマス指導者、彼はエジプト人ですが、2時間前に

「これをエスカレートさせるつもりは一切ない」

と述べました。ですから、恐らくこれで終わりでしょう。しかし、終わりはありません。200万人以上いるガザの人々には、電気がありません。現在は冬、凍える寒さです。私の服装を見てください。通常、国が行うように、お金を払って電気を買う代わりに、彼らはテロトンネルを掘り、施設を建て、自分に豪華な飛行機を購入しています。ですから、私が思うに、アメリカの国連難民救済事業機関の予算削減の決定は、間接的に、難民を装っているパレスチナ人たちを意味しているでしょう。そして、ドイツが切符を手に入れました。このように、常に彼らに資金提供

する者がいて、彼らが働かないように、彼らがテロリストの方を選ぶように、彼らがいつも敗北者になるように、常に助けを求めるようにしているのです。

そろそろ彼らも、将来を自分で切り開き、自分たちの世話は自分たちですべきです。2004年に、イスラエルがガザから撤退した時、我々はビニールハウスやその他の全農業施設や、全てを彼らに残しておいたのです。彼らに、それを使って何かをしてほしかったからです。しかし、彼らがしたことと言えば、その全てをテロリストの訓練所に変えてしまったのです。それと、イスラエルに向けて発射するためのミサイル発射台です。何事も、相互の協力が必要ですから、彼らが助けを望まないなら、誰も彼らを助けることは出来ません。パレスチナ人たちは、非常に欲求不満が募っていると思います。

「イスラエルが問題なのだ」

という彼らのいつもの雄弁術を、引き続き援助する者が誰もいませんから。中東を大きく見れば、イランが問題である、ということを知っているのです。今でさえ、このテロの波は、イランが先導していることを、皆が理解しています。皆さん、理解しておいてください。イランは、ハマスがイスラエルと問題を起こし、イスラエルに恥をかかせることが出来るようにと、何百万ドルという資金をガザ地区に流し込み、送っているのです。イランはイスラエルを滅ぼす事だけに必死になっているのです。そして、彼らが物理的に近づけば近づくほど、我々にとってそれはリアルになって来ます。そのために我々は、彼らがシリアやレバノンに確立するのを許さないので。そうなれば、我々は行動に出ます。ガザでもそれを目にしていて、我々はそれに対処しているのです。

ということで、以上が基本的にはこの12時間ほどの間に起こった事です。

爆破物で始まり、続けてイスラエルの報復、続けてイスラエルの空爆、その後、彼らがロケットを発射、その後、またイスラエルの空爆、それから、彼らがフェンスから潜入しようとしてきました。それだけです。特に物凄く深刻だったわけではなく、私たちは慣れていました。これが大きな事にエスカレートしないことを願っています。いつものように、戦争が彼らにとって、問題の解決方法とならない事を願います。

私たちはまだ、ダマスカスに目を向けています。シリアに目を向けています。シリアでは約10の異なる戦争が同時に起こっています。クルドとトルコの戦争、また、別のクルドとバッシュール・アサドの戦争、南の反政府勢力の間の戦争、ISISとその他との戦争、ダマスカスの郊外での、ロシアがバッシュール・アサドを援護しての戦争、非常に多くの小さな戦争が、現在シリアで起こっています。そして、その間に、イランは状況を利用して、シリアでの駐留を高めようとしています。彼らはイラン人兵士を使わず、アフガン人やイラク人シーア派を使っています。それは、彼らにとっては、戦場に行かせ戦死させる、安い労働力なのです。そして、彼らは基本的には、自分たちの大将や司令官を持っていて、細部にわたり彼らを統制します。彼らは、自分た

ちが遠くから連れてきたシーア派部隊に命じて、汚い仕事をさせるのです。

以上です。私は、ガザ地区に関しては、それほど心配していません。これまでもずっと言ってきましたが、パレスチナ人はイスラエルにとっては、実際の脅威ではありません。聖書には、エルサレムを分断し、イスラエルの国土を分断しようとする、世界の動きは書かれていますが、どこにもパレスチナ国家は出て来ません。そしてヨエル書 3:1~2 によれば、それをする全ての諸国を、主が裁かれることも、私たちは知っています。しかしながら、イスラエルに攻め込んで来る、大きな戦争で、聖書に記されている国々の名前の中に、パレスチナはありません。記されているのは、トルコ、イラン、ロシア、スーダン、リビア。これらは強国であって、地元アラブ人ではありません。念のために言っておきますと、ユダヤ、サマリヤ、ガザに住む地元パレスチナ人たちは、1948年、イスラエルを攻撃した連合勢力に加わり、1967年もそうでした。恐らく、次の攻撃でも彼らはまた同じように、イラン、トルコ、ロシアの勢力に加わるでしょう。今、既にそれが見えています。彼らはヨーロッパからも、アメリカからも、サウジアラビアといったスンニ派穏健派からも冷遇されています。だから現在、パレスチナ人たちは、トルコやイランの胸に飛び込んでいるのです。我々は毎日それを目にしています。ですから、その攻撃が起こったときに、パレスチナ人が彼らの側についたとしても、私は驚きません。しかし、先ほども言いましたが、彼ら単独では、脅威ではありません。イスラエルはやろうと思えば、恐らくとっくの昔に、数時間で滅ぼすことが出来たでしょう。我々は、彼らと共に平安に隣り合って暮らしたいのであって、彼らに代わって暮らしたいではありません。彼らが、我々と平安に住みたいと思わず、我々と隣り合って住みたくないのです。そうでなく、彼らは、我々に代わって住みたいのです。聖書には、詩篇 120 篇にこうあります。

**6 私は、久しく、平和を憎む者とともに住んでいた。**

**7 私は平和を――、私が話すと、彼らは戦いを望むのだ。**

(詩篇 120:6~7)

イスラエルの歌や本、文献の中で、平和というのは、最もよく使われる言葉です。私たちは、平和を望みます。そして、イスラエルの平和への探求が、反キリストにまで従う、という致命的な過ちとなるのです。しかし、相手側は平和を望んでいません。相手側は、粉々にしたいのです。彼らにとっての平和とは、彼らは未だに現実を否定して生きていて、いつか、イスラエルの全土が自分たちのものとなる、という幻想の中に生きています。パレスチナ人にとって、それは西岸地区ではなく、ガザでもなく、それはイスラエルの地全体です。彼らにとっては、ヨッパも、ハイファも、ティベリアも、テルアビブも、こういった場所も彼らのものなのです。彼らが西岸だけで満足するなんて、彼らからすればジョークであって、彼らは満足しません。

ということで、今回起こった事の短いアップデートでした。皆さんのお祈り、ご支援に感謝します。もし何か深刻な事態が起こったときには、続けてアップデートします。何度も言いますが、

ダマスカスに目を向けておいてください。イランに目を向けておいてください。それから、現在激しく流血し、屈辱を受けているロシアの熊に目を向けておいてください。彼らは国民を失い、お金を失っています。彼らは、シリアの大部分で支配力を失っています。しかし、彼らにそんな余裕はありません。ですから、もし、イスラエルに、何か恐れるべき事があるとすれば、それは現在のロシアの感情であって、現在のパレスチナの感情ではありません。何度も言いますが、私たちはこれらのことに目を向けておかなければなりません。もし何かが起これば、私が皆さんの地上軍ですので、必ず皆さんにアップデートします。時によって、私はすぐにアップデートを行いません。それは、事態の展開を待って、本質をつかんでから、皆さんに明確に報告するためです。こういったことは、報告できる程度に事態が落ち着くまで、何時間も行ったり来たりするものです。しかし、皆さんが知っておくべきだと思うようなことがまた起これば、必ず皆さんにお伝えします。

ハッカビー議員のツアーも、残り二日となりました。その後、数日自宅で過ごして、続けて二つのツアーを引率します。それからギリシャとトルコで、メッセージをいくつか撮影する予定です。それについても、発売の時期などをまたお知らせします。これもまた、楽しみです。さらにヨルダンでも、ペトラ(ボツラ)の地域で、大患難に関するメッセージを収録したいと思っています。それから、御心ならば、エジプトに行って、あちらでいくつかのメッセージを収録しようと思っています。出エジプトの時に、何が起こったのかについて、また、預言者イザヤとゼカリヤによれば、将来エジプトに何が起こるのかについて、明確にしたいと思っています。エジプトは、終わりの時の重要な役者です。ですから、私たち全員がそれを理解しておくのは、非常に重要だと思っています。それ以外にも、2018年のツアー計画を発表します。13ヶ国だったと思いますが、訪問します。そのうちの2ヶ国、フィリピンとアメリカ合衆国は、1月に既に訪れています。ですが、南アフリカやスイス、ルーマニア、オーストリア、それからスロヴェニアといった新しい国を訪れます。とても楽しみです。それから、再びカナダを訪れます。他の国も再び訪れます。

この後、息子を軍に送って行きます。週末の間、息子が帰って来ていて、素晴らしい時間を一緒に過ごしました。どうか、引き続き息子のためにお祈りください。彼の部隊のためにも、また、イスラエルの兵士たちのためにも引き続きお祈りください。

ありがとうございます。ガリラヤより、God bless you! そして、シャローム。

引き続きアップデートして行きますので、お見逃しなく。

イスラエルより、God bless you!

そして、シャローム! さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

---